

川越市上下水道事業経営戦略

令和2年度 取組状況報告書

水道事業

公共下水道事業

— 目次 —

はじめに	1
1. 決算状況・経営の取組状況（水道事業）	2
2. 決算状況・経営の取組状況（下水道事業）	6
3. 経営比較分析表を活用した現状分析（水道事業）	10
4. 経営比較分析表を活用した現状分析（下水道事業）	17

令和3年11月
川越市上下水道局

はじめに

本市では、水道事業及び公共下水道事業が将来にわたってサービスの提供を安定的に継続できるよう、中長期的な経営の基本計画である「川越市上下水道事業経営戦略」を策定しました（令和2年3月）。

また、総務省は平成31年3月に発出した『「経営戦略」の策定・改定の更なる推進について』において、経営戦略の策定後は、進捗管理や計画と実績との乖離検証を行い、「経営戦略策定・改定ガイドライン」や「経営戦略策定・改定マニュアル」を用いて、定期的な見直しを行うことなどを各地方公共団体に要請しています（PDCAサイクルの確立）。

このたび、令和2年度決算に基づき経営戦略に掲げた事業計画について、その取組状況を検証するとともに経営状況の評価を行いました。

計画期間＝令和2年度～令和11年度

検証・評価＝令和2年度



川越市上下水道事業経営戦略におけるPDCAサイクル

1. 決算状況・経営の取組状況

水道事業

(1) 令和2年度決算

令和2年度の収益的収支は約4億3,000万円の当年度純利益が生じ、前年度に比べ約5,200万円増加し、計画値との比較では約7,200万円上回る状況となりました。

資本的収支では、建設改良費が前年度に比べ約8,800万円増加したものの、企業債の借入額の増加等により前年度に比べ資本的収支不足額は約4,700万円減少しました。また、計画値との比較では約3億9,700万円下回る状況となりました。

(2) 経営の取組状況

経営戦略を着実に推進するために、計画に掲げた投資及び財源の目標に沿った取組の評価を毎年度実施します。

評価結果を事業や今後の計画に反映させることにより、継続的に改善を行っていきます。

① 評価の方法

経営戦略に掲げた投資及び財源に関する方向性で示した数値目標に関する達成度合いについて評価（内部評価*）を行います。

② 評価基準

目標を設定した指標について、以下の基準に基づき評価を行い、C評価となった項目については、改善の取組に関する検討を行います。

A	順調	問題なく進んでいる
B	おおむね順調	計画期間終了までに目標を達成できる見込みがある
C	遅れている	進展が遅く、改善の取組を進める必要がある

③ 評価（各指標についてはP3【令和2年度取組状況に関する評価（水道事業）】に記載）

新型コロナウイルスの影響により、水道使用の実態に大きな変化が見られました。その結果、将来の見通に影響が生じたため、今後、計画の目標達成に向けた財源の確保及び、実情に即した収支計画について精査が必要な状況が生じています。

* 上下水道局内にて評価を行い、外部評価については経営戦略の見直しの際に実施することを想定しています。

◆令和2年度取組状況に関する評価（水道事業）

1. 投資に関する方向性

目標値

（当初値／実績値／目標値）		当初 ^(H29末)	R元末 ^{実績}	R2末 ^{実績}	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
有収率 （年間有収水量／ 年間配水量）	評価 B	94.6%	93.3%	94.0%								95.0%
管路の更新率 （更新管路延長／ 管路総延長）	評価 B	0.98%	0.94%	0.96%								1.25%
重要施設配水管耐震化率 （耐震化済延長／ 全重要施設配水管延長）	評価 B	15.8%	18.0%	20.3%								30.0%
配水管の耐震化率	評価 B	20.1%	22.1%	23.2%								32.6%

3

2. 財源に関する方向性

目標値

（当初値／実績値／目標値）		当初 ^(H29末)	R元末 ^{実績}	R2末 ^{実績}	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
企業債残高対給水収益比率 （200%以内）	評価 A	134.92%	134.71%	139.28%								200%以内
適正な内部留保資金水準 （25億円以上）	評価 A	約25.1億円	約43.7億円	約46.6億円								25億円以上
料金回収率100%以上 （供給単価／給水原価）	評価 B	103.53%	95.5%	96.3%								100%以上
累積欠損金未発生	評価 A	未発生	未発生	未発生								未発生

* 計画策定時における指標値として当初値（平成29年度末）、計画初年度の前年度対比として令和元年度末の値を併記しています。

◆令和2年度収支状況

水道事業収益の収支

科目	令和元年度決算額	令和2年度決算額
水道事業収益	6,399,185,742	6,244,764,233
営業収益	5,938,243,779	5,797,274,019
営業外収益	454,933,142	446,660,336
特別利益	6,008,821	829,878
水道事業費用	6,021,307,782	5,815,215,144
営業費用	5,862,080,539	5,672,102,535
営業外費用	157,193,567	141,613,209
特別損失	2,033,676	1,499,400
当年度純利益	377,877,960	429,549,089

水道事業資本の収支

科目	令和元年度決算額	令和2年度決算額
資本の収入	782,574,938	938,594,000
企業債	600,000,000	700,000,000
他会計負担金	52,724,000	35,741,000
工事負担金	43,254,638	115,524,000
水道施設加入金	84,230,960	87,289,400
固定資産売却代金	2,365,340	39,600
資本の支出	2,569,485,015	2,678,384,104
建設改良費	1,932,172,101	2,019,687,529
企業債償還金	637,312,914	658,696,575
予備費	0	0
資本の収支	△1,786,910,077	△1,739,790,104

令和2年度取組状況報告書

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	計画と実績の差
△ 154,421,509	6,523,794,000	△ 279,029,767
△ 140,969,760	6,135,904,000	△ 338,629,981
△ 8,272,806	387,880,000	58,780,336
△ 5,178,943	10,000	819,878
△ 206,092,638	6,165,884,000	△ 350,668,856
△ 189,978,004	6,002,258,000	△ 330,155,465
△ 15,580,358	158,852,000	△ 17,238,791
△ 534,276	4,774,000	△ 3,274,600
51,671,129	357,910,000	71,639,089

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	計画と実績の差
156,019,062	952,408,000	△ 13,814,000
100,000,000	700,000,000	0
△ 16,983,000	53,184,000	△ 17,443,000
72,269,362	91,461,000	24,063,000
3,058,440	107,763,000	△ 20,473,600
△ 2,325,740	0	39,600
108,899,089	3,088,949,000	△ 410,564,896
87,515,428	2,425,252,000	△ 405,564,471
21,383,661	658,697,000	△ 425
0	5,000,000	△ 5,000,000
47,119,973	△ 2,136,541,000	396,750,896

2. 決算状況・経営の取組状況

下水道事業

(1) 令和2年度決算

令和2年度の収益的収支は、約1億700万円の当年度純利益が生じ、前年度に比べ約9,200万円増加しましたが、計画値との比較では約8,300万円下回る状況となりました。

資本的収支では、建設改良費の増加等により前年度と比べて資本的収支不足額が約3億9,500万円増加しました。また、計画値との比較では約4億2,000万円下回る状況となりました。

(2) 経営の取組状況

経営戦略を着実に推進するために計画に掲げた投資及び財源の目標に沿った取組の評価を毎年度実施します。

評価結果を事業や今後の計画に反映させることにより、継続的に改善を行っていきます。

① 評価の方法

経営戦略に掲げた投資及び財源に関する方向性で示した数値目標に関する達成度合いについて評価（内部評価*）を行います。

② 評価基準

目標を設定した指標について、以下の基準に基づき評価を行い、C評価となった項目については、改善の取組に関する検討を行います。

A	順調	問題なく進んでいる
B	おおむね順調	計画期間終了までに目標を達成できる見込みがある
C	遅れている	進展が遅く、改善の取組を進める必要がある

③ 評価（各指標についてはP7【令和2年度取組状況に関する評価（下水道事業）】に記載）

施設の老朽化が進行しています。また有収率も依然として低いことから、不明水対策や老朽施設の修繕、更新等を計画的に行い、維持管理費の圧縮に努める必要があります。また下水道接続に関する指導を継続するなど、財源確保に関する取組を強化していく必要があると考えられます。

* 上下水道局内にて評価を行い、外部評価については経営戦略の見直しの際に実施することを想定しています。

◆令和2年度取組状況に関する評価（下水道事業）

1. 投資に関する方向性

目標値

（当初値／実績値／目標値）		当初 ^(H29末)	R元末 ^{実績}	R2末 ^{実績}	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
長寿命化管きょ延長	評価 B	31.7 km	32.3 km	33.8 km								36.7 km
管きょ耐震化率 （耐震管渠延長／ 管渠総延長）	評価 A	14.5%	15.5%	17.0%								22.8%
有収率 （年間有収水量／ 年間汚水処理量）	評価 C	71.3%	65.7%	68.6%								80.0%

2. 財源に関する方向性

目標値

（当初値／実績値／目標値）		当初 ^(H29末)	R元末 ^{実績}	R2末 ^{実績}	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
企業債残高対事業規模比率 （200%以内）	評価 A	172.23 %	156.26 %	146.39 %								200%以内
適正な内部留保資金水準 （30億円以上）	評価 A	約34.8億円	約45.7億円	約48.4億円								30億円以上
経費回収率100%以上 （下水道使用料／汚水処理費）	評価 B	107.44 %	86.93 %*	87.92 %								100%以上
累積欠損金未発生	評価 A	未発生	未発生	未発生								未発生

*令和元年度から、総務省が示した地方公営企業決算状況調査の基準に基づき、汚水処理費の算出方法を変更したことから数値が減少しました。
（変更前の算出方法による令和2年度の経費回収率は102.52%です）

*計画策定時における指標値として当初値（平成29年度末）、計画初年度の前年度対比として令和元年度末の値を併記しています。

◆令和2年度収支状況

公共下水道事業収益の収支

科目	令和元年度決算額	令和2年度決算額
下水道事業収益	6,025,250,520	6,114,626,837
営業収益	4,148,925,639	4,161,352,825
営業外収益	1,856,017,955	1,842,220,944
特別利益	20,306,926	111,053,068
下水道事業費用	6,009,807,456	6,007,505,505
営業費用	5,579,482,720	5,585,135,725
営業外費用	410,829,559	375,477,951
特別損失	19,495,177	46,891,829
当年度純利益	15,443,064	107,121,332

公共下水道事業資本の収支

科目	令和元年度決算額	令和2年度決算額
資本的收入	649,930,839	963,493,127
企業債	339,100,000	555,900,000
国庫補助金	4,250,000	97,970,000
工事負担金	0	396,300
その他	46,182,640	104,343,920
他会計負担金	66,260,199	69,433,407
他会計補助金	194,138,000	135,433,000
固定資産売却代金	0	16,500
資本の支出	2,213,730,359	2,922,496,418
建設改良費	1,020,361,569	1,735,638,147
企業債償還金	1,193,368,790	1,186,858,271
予備費	0	0
資本の収支	△1,563,799,520	△1,959,003,291

令和2年度取組状況報告書

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	計画と実績の差
89,376,317	6,218,700,000	△ 104,073,163
12,427,186	4,345,065,000	△ 183,712,175
△ 13,797,011	1,856,435,000	△ 14,214,056
90,746,142	17,200,000	93,853,068
△ 2,301,951	6,028,204,000	△ 20,698,495
5,653,005	5,678,463,000	△ 93,327,275
△ 35,351,608	329,003,000	46,474,951
27,396,652	20,738,000	26,153,829
91,678,268	190,496,000	△ 83,374,668

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	計画と実績の差
313,562,288	1,427,076,000	△ 463,582,873
216,800,000	600,000,000	△ 44,100,000
93,720,000	138,800,000	△ 40,830,000
396,300	0	396,300
58,161,280	42,600,000	61,743,920
3,173,208	66,146,000	3,287,407
△ 58,705,000	579,530,000	△ 444,097,000
16,500	0	16,500
708,766,059	3,809,551,000	△ 887,054,582
715,276,578	2,617,691,000	△ 882,052,853
△ 6,510,519	1,186,860,000	△ 1,729
0	5,000,000	△ 5,000,000
△ 395,203,771	△ 2,382,475,000	423,471,709

3. 経営比較分析表を活用した現状分析

水道事業

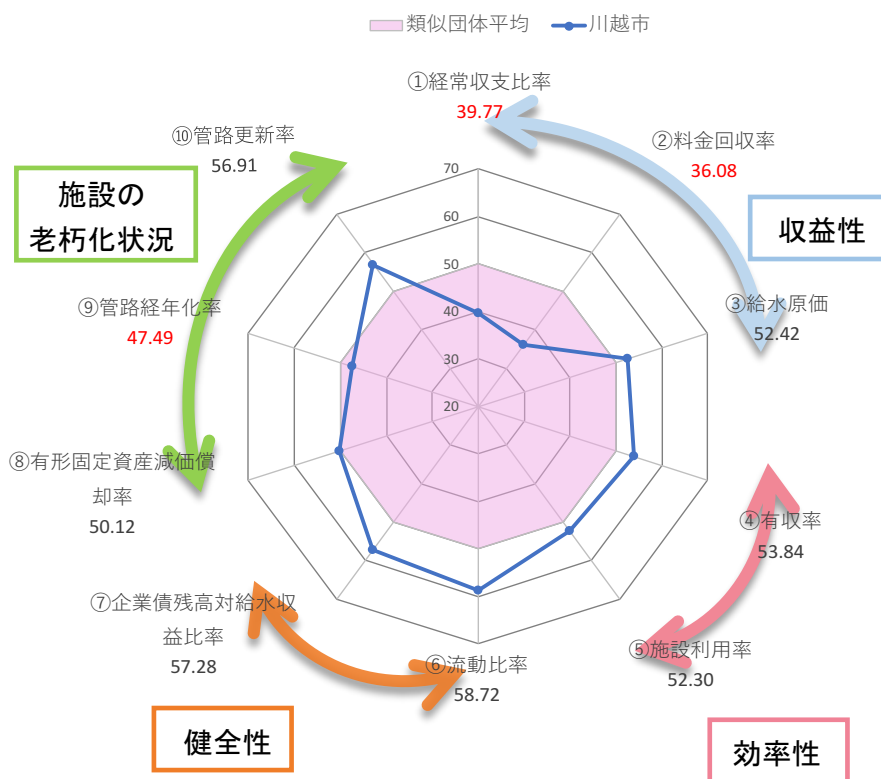
本経営戦略では、総務省が示している経営指標を用いて経営や施設の状況に関して経年変化や類似団体平均との比較を行うことで現状や課題を把握することとしています。

経営比較分析表とは、総務省が示した統一様式により、公営企業における経営や施設の状況を表す指標について、経年変化や類似団体平均との比較分析を行うことで、現状や課題等を把握することができる資料です。

経営比較分析表から令和元年度の各指標値を抽出し、下図のとおりレーダーチャートを作成しました。類似団体平均（ピンク色）を偏差値50とし、外側に向かうほど各指標が平均よりもよいことを表します。

続けて、直近6年間における本市の各指標値と平成27年度から令和元年度までの類似団体平均値との比較を示しています。

なお、類似団体とは、給水形態及び現在給水人口規模により区分されたもので、川越市は「末端給水事業、現在給水人口30万人以上」の区分（令和元年度は50団体）に属しています。



経営比較分析表レーダーチャート（令和元年度 水道事業）

令和2年度取組状況報告書

収益性に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">経常収支比率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>111.14</td> <td>109.39</td> <td>114.95</td> <td>110.39</td> <td>106.21</td> <td>107.40</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>115.21</td> <td>117.25</td> <td>116.77</td> <td>115.41</td> <td>113.57</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	111.14	109.39	114.95	110.39	106.21	107.40	平均値	115.21	117.25	116.77	115.41	113.57	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		111.14	109.39	114.95	110.39	106.21	107.40															
平均値		115.21	117.25	116.77	115.41	113.57	-															
①経常収支比率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$																						
説明	評価																					
<p>毎年度の維持管理費や支払利息等の費用を、料金収入や繰入金等でどの程度賄えているかを示す指標です。100%以上であるときは、単年度の収支が黒字であることを意味します。</p>	<p>100%以上であるものの、類似団体より低い傾向であり、新型コロナウイルスの影響や、人口減少に伴う給水収益の減少が将来的に予想されることから、今後も収支バランスを注視し、経営環境の変化に応じた対策が必要です。</p>																					

収益性に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">料金回収率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>101.57</td> <td>98.69</td> <td>103.53</td> <td>99.70</td> <td>95.53</td> <td>96.25</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>108.81</td> <td>110.87</td> <td>110.30</td> <td>109.12</td> <td>107.42</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	101.57	98.69	103.53	99.70	95.53	96.25	平均値	108.81	110.87	110.30	109.12	107.42	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		101.57	98.69	103.53	99.70	95.53	96.25															
平均値		108.81	110.87	110.30	109.12	107.42	-															
②料金回収率(%)																						
評価基準																						
100%を超えること																						
計算式																						
$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$																						
説明	評価																					
<p>給水に要した経費を、料金収入でどの程度賄えているかを示した指標です。料金水準等を評価することが可能で、すべて料金収入で賄えている場合は100%以上となり、適正な水道料金が確保されることとなります。</p>	<p>100%を下回る傾向にあるため、今後想定される施設の維持や修繕等に要する費用を見込んだ適正な供給単価の水準を検討する必要があります。</p>																					

令和2年度取組状況報告書

収益性に関する指標

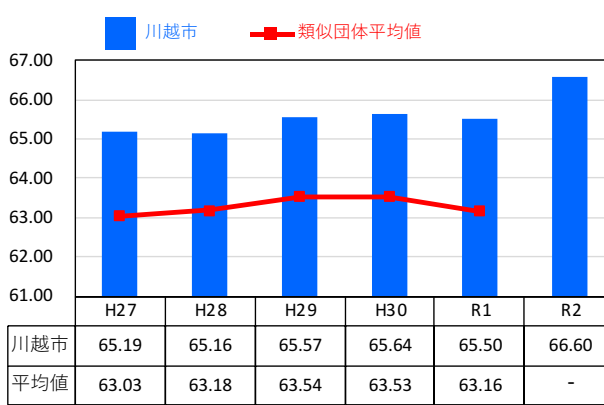
業務指標	<p style="text-align: center;">給水原価(円/m³)</p> <table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>143.17</td> <td>147.76</td> <td>140.50</td> <td>145.20</td> <td>150.33</td> <td>141.86</td> </tr> <tr> <td>平均值</td> <td>152.95</td> <td>150.54</td> <td>151.85</td> <td>153.88</td> <td>157.19</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	143.17	147.76	140.50	145.20	150.33	141.86	平均值	152.95	150.54	151.85	153.88	157.19	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		143.17	147.76	140.50	145.20	150.33	141.86															
平均值		152.95	150.54	151.85	153.88	157.19	-															
③給水原価(円/m ³)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{経常費用} - \left(\begin{array}{l} \text{受託工事費} \\ \text{+材料及び不用品売却原価} \\ \text{+附帯事業費} \end{array} \right) - \text{長期前受金戻入}}{\text{年間(総)有収水量}}$																						
説明	評価																					
<p>水道料金の対象となった水量1m³当たりの給水に要した費用を示す指標です。一般的には低額の方がよいとされていますが、明確な数値基準がないため、経年比較や類似団体との比較等により現状分析を行う必要があります。</p>	<p>令和2年度は修繕費の減少等により、給水原価が大きく減少しました。類似団体より低い傾向にありますが、今後増加が見込まれる維持管理費や、営業費用の約4割を占める県水の購入単価の動向を注視していきます。</p>																					

効率性に関する指標

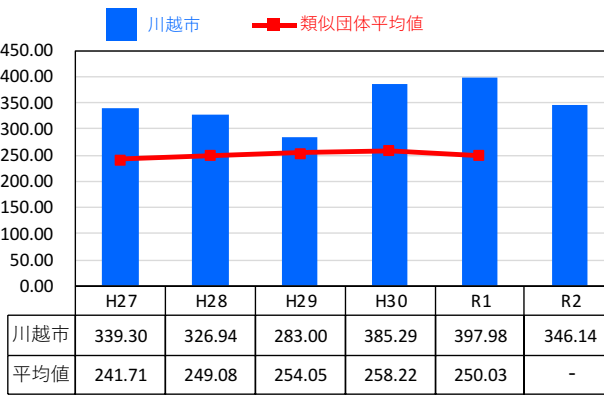
業務指標	<p style="text-align: center;">有収率(%)</p> <table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>94.36</td> <td>94.98</td> <td>94.56</td> <td>94.22</td> <td>93.25</td> <td>94.02</td> </tr> <tr> <td>平均值</td> <td>91.21</td> <td>91.60</td> <td>91.48</td> <td>91.58</td> <td>91.48</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	94.36	94.98	94.56	94.22	93.25	94.02	平均值	91.21	91.60	91.48	91.58	91.48	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		94.36	94.98	94.56	94.22	93.25	94.02															
平均值		91.21	91.60	91.48	91.58	91.48	-															
④有収率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{年間(総)有収水量}}{\text{年間(総)配水量}} \times 100$																						
説明	評価																					
<p>浄水場・受水場から配水した水量のうち、実際に水道料金の対象となった水量の割合を示す指標で、100%に近いほどよいとされています。</p>	<p>令和元年度に台風被害の対応で使用した水道水(調定減額水量)の影響等により落ち込んでいた有収率は、平年並みの水準になりましたが、適正な水準を確保できるよう今後も老朽管更新等を計画的に続けていきます。</p>																					

令和2年度取組状況報告書

効率性に関する指標

業務指標	<div style="text-align: center;">施設利用率(%)</div>  <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>65.19</td> <td>65.16</td> <td>65.57</td> <td>65.64</td> <td>65.50</td> <td>66.60</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>63.03</td> <td>63.18</td> <td>63.54</td> <td>63.53</td> <td>63.16</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	65.19	65.16	65.57	65.64	65.50	66.60	平均値	63.03	63.18	63.54	63.53	63.16	-
			H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市			65.19	65.16	65.57	65.64	65.50	66.60															
平均値			63.03	63.18	63.54	63.53	63.16	-															
⑤施設利用率(%)																							
評価基準																							
高い方がよい																							
計算式																							
$\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$																							
説明	評価																						
水道施設の効率性を示し、施設の利用状況や適正規模を判断するための指標です。明確な数値基準はありませんが、高い数値の方がよいとされています。数値が高すぎる場合は施設の余裕が少なく、低すぎる場合は無駄のある状態です。	令和2年度は、新型コロナウイルスの感染予防策としてステイホーム等の取組など、新しい生活様式の浸透により平均配水量が増加しました。今後の動向に注視しつつ適正な施設規模のあり方について検討が必要です。																						

健全性に関する指標

業務指標	<div style="text-align: center;">流動比率(%)</div>  <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>339.30</td> <td>326.94</td> <td>283.00</td> <td>385.29</td> <td>397.98</td> <td>346.14</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>241.71</td> <td>249.08</td> <td>254.05</td> <td>258.22</td> <td>250.03</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	339.30	326.94	283.00	385.29	397.98	346.14	平均値	241.71	249.08	254.05	258.22	250.03	-
			H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市			339.30	326.94	283.00	385.29	397.98	346.14															
平均値			241.71	249.08	254.05	258.22	250.03	-															
⑥流動比率(%)																							
評価基準																							
高い方がよい																							
計算式																							
$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$																							
説明	評価																						
1年以内に支払うべき債務に対して、支払い可能な現金等をどの程度有しているかを示す指標で、短期の支払い能力を表しています。200%を超えていることが望ましく、100%未満では不良債権が発生している可能性があります。	令和2年度は前年度より低下したものの、高い水準を維持しており、短期的な支払能力を確保できています。																						

令和2年度取組状況報告書

健全性に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">企業債残高対給水収益比率(%)</p> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>137.55</td> <td>133.91</td> <td>134.92</td> <td>133.02</td> <td>134.71</td> <td>139.28</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>274.14</td> <td>266.66</td> <td>258.63</td> <td>255.12</td> <td>254.19</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	137.55	133.91	134.92	133.02	134.71	139.28	平均値	274.14	266.66	258.63	255.12	254.19	-
			H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市			137.55	133.91	134.92	133.02	134.71	139.28															
平均値			274.14	266.66	258.63	255.12	254.19	-															
⑦企業債残高対給水収益比率(%)																							
評価基準																							
低い方がよい																							
計算式																							
$\frac{\text{企業債現在高合計}}{\text{給水収益}} \times 100$																							
説明	評価																						
<p>企業債の残高と料金収入等の収益との比率を示す指標です。明確な数値基準はありませんが、比率は低い方がよいとされています。ただし、世代間負担の公平性という観点からは、企業債を一定程度活用することも望まれます。</p>	<p>類似団体より低い傾向ですが、今後の更新事業の財源として世代間負担を考慮した適正な水準について検討が必要です。</p>																						

健全性に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">累積欠損金比率(%)</p> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>0.71</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	平均値	0.71	0.00	0.00	0.00	0.00	-
			H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00															
平均値			0.71	0.00	0.00	0.00	0.00	-															
累積欠損金比率(%)																							
評価基準																							
低い方がよい																							
計算式																							
$\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}} \times 100$																							
説明	評価																						
<p>累積欠損金とは、営業活動の結果発生した損失が、当該年度で処理できずに複数年度にわたって累積したものを示しています。健全な経営を維持していく上では、累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められます。</p>	<p>本市では、累積欠損金は発生していません。</p>																						

令和2年度取組状況報告書

施設の老朽化状況

業務指標	<p style="text-align: center;">有形固定資産減価償却率(%)</p> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>47.13</td> <td>47.95</td> <td>48.75</td> <td>50.09</td> <td>51.08</td> <td>51.92</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>48.41</td> <td>49.10</td> <td>49.66</td> <td>50.41</td> <td>51.13</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	47.13	47.95	48.75	50.09	51.08	51.92	平均値	48.41	49.10	49.66	50.41	51.13	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		47.13	47.95	48.75	50.09	51.08	51.92															
平均値		48.41	49.10	49.66	50.41	51.13	-															
⑧有形固定資産減価償却率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$																						
説明	評価																					
有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標で、資産の老朽化度合いを表しています。この比率が高いほど減価償却が進んでおり、施設の老朽化が進んでいるということを示しています。	類似団体よりやや低く推移していますが、上昇傾向にあり、施設の老朽化が進行しています。計画的、効果的な償却対象資産の更新を行う必要があります。																					

施設の老朽化状況

業務指標	<p style="text-align: center;">管路経年化率(%)</p> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>19.32</td> <td>20.30</td> <td>21.38</td> <td>23.39</td> <td>24.71</td> <td>25.86</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>16.16</td> <td>17.42</td> <td>18.94</td> <td>20.36</td> <td>22.41</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	19.32	20.30	21.38	23.39	24.71	25.86	平均値	16.16	17.42	18.94	20.36	22.41	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		19.32	20.30	21.38	23.39	24.71	25.86															
平均値		16.16	17.42	18.94	20.36	22.41	-															
⑨管路経年化率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$																						
説明	評価																					
法定耐用年数を超えた管路延長の割合を示す指標で、管路の老朽化度合いを表しています。	類似団体よりやや高く、上昇傾向にあります。今後もアセットマネジメントに基づき、計画的、効率的に管路の更新を行っていく必要があります。																					

令和2年度取組状況報告書

施設の老朽化状況

業務指標	<p style="text-align: center;">管路更新率(%)</p> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>1.12</td> <td>1.06</td> <td>0.98</td> <td>0.66</td> <td>0.94</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>0.74</td> <td>0.73</td> <td>0.74</td> <td>0.75</td> <td>0.73</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	1.12	1.06	0.98	0.66	0.94	0.96	平均値	0.74	0.73	0.74	0.75	0.73	-
			H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市			1.12	1.06	0.98	0.66	0.94	0.96															
平均値			0.74	0.73	0.74	0.75	0.73	-															
⑩管路更新率(%)																							
評価基準																							
高い方がよい																							
計算式																							
$\frac{\text{当該年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$																							
説明	評価																						
<p>その年度に更新した管路延長の割合を示した指標で、更新の取組状況を表しています。例えば毎年1%ずつ更新した場合、100年で全ての管路を更新する計算となります。</p>	<p>類似団体よりおおむね高く推移しています。アセットマネジメントに基づいた更新を行い、管路の機能保全を図っていく必要があります。</p>																						

4. 経営比較分析表を活用した現状分析

下水道事業

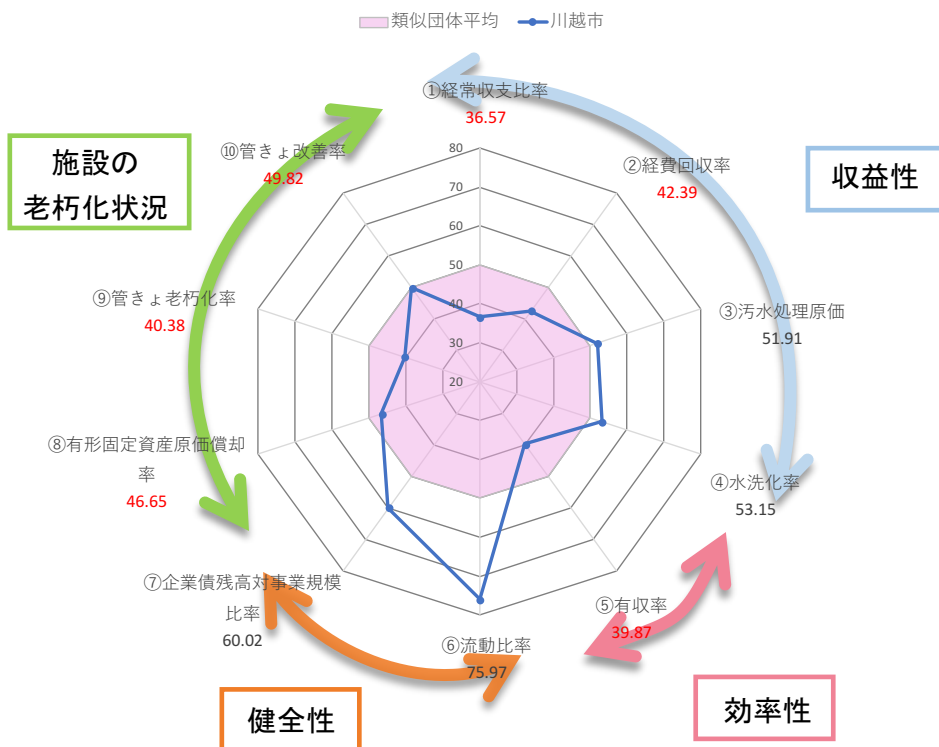
本経営戦略では、総務省が示している経営指標を用いて経営や施設の状況に関して経年変化や類似団体平均との比較を行うことで現状や課題を把握することとしています。

経営比較分析表とは、総務省が示した統一様式により、公営企業における経営や施設の状況を表す指標について、経年変化や類似団体平均との比較分析を行うことで、現状や課題等を把握することができる資料です。

経営比較分析表から令和元年度の各指標値を抽出し、下図のとおりレーダーチャートを作成しました。類似団体平均（ピンク色）を偏差値50とし、外側に向かうほど各指標が平均よりもよいことを表します。

続けて、直近6年間における本市の各指標値と平成27年度から令和元年度までの類似団体平均値との比較を示しています。

なお、類似団体とは、処理区域内人口規模、人口密度等により区分されたもので、川越市は「処理区域内人口10万人以上、処理区域内人口密度75人/ha以上」の区分（令和元年度は29団体）に属しています。



経営比較分析表レーダーチャート（令和元年度 下水道事業）

*有収率は経営比較分析表の指標ではありませんが、本経営戦略では分析の項目に追加しています。

令和2年度取組状況報告書

収益性に関する指標

業務指標	
①経常収支比率(%)	
評価基準	
高い方がよい	
計算式	
$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	
説明	評価
<p>毎年度の維持管理費や支払利息等の費用を、使用料収入や繰入金等でどの程度賄えているかを示す指標です。100%以上であるときは、単年度の収支が黒字であることを意味します。</p>	<p>梅雨の長雨等の影響で、例年よりも流域下水道の維持管理に関して多くの費用を要したこともあり、数値が低くなっています。気候変動や生活環境の変化に応じた対策が必要です。</p>

収益性に関する指標

業務指標	
②経費回収率(%)	
評価基準	
100%を超えること	
計算式	
$\frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費 (公費負担分を除く)}} \times 100$	
説明	評価
<p>汚水処理に要した経費を、使用料収入でどの程度賄えているかを示した指標です。使用料水準等を評価することが可能で、すべて使用料収入で賄えている場合は100%以上となり、適正な使用料が確保されていることとなります。</p>	<p>令和元年度から汚水処理費の算出方法を見直したこと及び梅雨の長雨等の影響により費用が増加したこともあり、100%を下回りました。今後想定される施設の維持や修繕等に要する費用を見込んだ適正な使用料単価の水準を検討する必要があります。</p>

令和2年度取組状況報告書

収益性に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">汚水処理原価(円/m³)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>90.48</td> <td>96.11</td> <td>91.49</td> <td>90.52</td> <td>112.19</td> <td>109.11</td> </tr> <tr> <td>類似団体平均値</td> <td>116.15</td> <td>116.20</td> <td>118.78</td> <td>119.39</td> <td>117.41</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	90.48	96.11	91.49	90.52	112.19	109.11	類似団体平均値	116.15	116.20	118.78	119.39	117.41	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		90.48	96.11	91.49	90.52	112.19	109.11															
類似団体平均値		116.15	116.20	118.78	119.39	117.41	-															
③汚水処理原価(円/m ³)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{汚水処理費 (公費負担分を除く)}}{\text{年間有収水量}}$																						
説明	評価																					
<p>下水道使用料の対象となった水量1m³当たりの汚水処理に要した費用を示す指標です。一般的には低額の方がよいとされていますが、明確な数値基準がないため、経年比較や類似団体との比較等により現状分析を行う必要があります。</p>	<p>令和元年度から汚水処理費の算出方法を見直したこと及び梅雨の長雨等の影響により費用が増加したこともあり、これまでより数値が上昇しました。今後も経費の削減に努めるとともに、不明水対策等を進めていく必要があります。</p>																					

収益性に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">水洗化率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>97.86</td> <td>97.52</td> <td>98.00</td> <td>98.03</td> <td>98.06</td> <td>98.18</td> </tr> <tr> <td>類似団体平均値</td> <td>96.84</td> <td>96.84</td> <td>96.75</td> <td>96.78</td> <td>97.00</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	97.86	97.52	98.00	98.03	98.06	98.18	類似団体平均値	96.84	96.84	96.75	96.78	97.00	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		97.86	97.52	98.00	98.03	98.06	98.18															
類似団体平均値		96.84	96.84	96.75	96.78	97.00	-															
④水洗化率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}} \times 100$																						
説明	評価																					
<p>処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理をしている人口の割合を示す指標です。100%となることが理想です。</p>	<p>類似団体を上回っていますが、引き続き普及の促進に努めていきます。</p>																					

令和2年度取組状況報告書

効率性に関する指標

業務指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>70.09</td> <td>73.71</td> <td>71.30</td> <td>73.52</td> <td>65.70</td> <td>68.60</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>79.79</td> <td>81.17</td> <td>81.46</td> <td>82.29</td> <td>80.01</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	70.09	73.71	71.30	73.52	65.70	68.60	平均値	79.79	81.17	81.46	82.29	80.01	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		70.09	73.71	71.30	73.52	65.70	68.60															
平均値		79.79	81.17	81.46	82.29	80.01	-															
⑤有収率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{年間有収水量}}{\text{年間汚水処理水量}} \times 100$																						
説明	評価																					
各家庭・事業所等から出た汚水量のうち、実際に下水道使用料の対象となった水量の割合を示す指標で、100%に近いほどよいとされています。	梅雨の長雨等の影響で不明水が増えたため、有収率は例年よりも低い数値となりました。今後も流量調査やカメラ調査等の効率的な不明水対策を継続して行っていく必要があります。																					

効率性に関する指標

業務指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>72.24</td> <td>69.23</td> <td>70.37</td> <td>68.30</td> <td>67.37</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	-	-	-	-	-	-	平均値	72.24	69.23	70.37	68.30	67.37	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		-	-	-	-	-	-															
平均値		72.24	69.23	70.37	68.30	67.37	-															
施設利用率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{晴天時一日平均処理水量}}{\text{晴天時現在処理能力}} \times 100$																						
説明	評価																					
下水道施設の効率性を示し、施設の利用状況や適正規模を判断するための指標です。明確な数値基準はありませんが、高い数値の方がよいとされています。数値が高すぎる場合は施設の余裕が少なく、低すぎる場合は無駄のある状態です。	本市は処理場を有していないため、該当しません。																					

令和2年度取組状況報告書

健全性に関する指標

業務指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>189.71</td> <td>222.14</td> <td>218.83</td> <td>260.15</td> <td>300.79</td> <td>292.90</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>66.90</td> <td>72.74</td> <td>83.46</td> <td>80.64</td> <td>88.10</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	189.71	222.14	218.83	260.15	300.79	292.90	平均値	66.90	72.74	83.46	80.64	88.10	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		189.71	222.14	218.83	260.15	300.79	292.90															
平均値		66.90	72.74	83.46	80.64	88.10	-															
⑥流動比率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$																						
説明	評価																					
1年以内に支払うべき債務に対して、支払い可能な現金等をどの程度有しているかを示す指標で、短期の支払い能力を表しています。200%を超えていることが望ましく、100%未満では不良債権が発生している可能性があります。	高い水準を維持しており、短期的な支払能力を確保できています。																					

健全性に関する指標

業務指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>172.76</td> <td>182.89</td> <td>172.23</td> <td>165.02</td> <td>156.26</td> <td>146.39</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>643.19</td> <td>596.44</td> <td>612.60</td> <td>606.80</td> <td>585.56</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	172.76	182.89	172.23	165.02	156.26	146.39	平均値	643.19	596.44	612.60	606.80	585.56	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		172.76	182.89	172.23	165.02	156.26	146.39															
平均値		643.19	596.44	612.60	606.80	585.56	-															
⑦企業債残高対事業規模比率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{企業債現在高合計} - \text{一般会計負担額}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益} - \text{雨水処理負担金}} \times 100$																						
説明	評価																					
企業債の残高と使用料収入等の収益との比率を示す指標です。明確な数値基準はありませんが、比率は低い方がよいとされています。ただし、世代間負担の公平性という観点からは、企業債を一定程度活用することも望まれます。	類似団体より低い傾向ですが、世代間負担を考慮した適正な水準について今後も検討が必要です。																					

令和2年度取組状況報告書

健全性に関する指標

業務指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.41</td> <td>0.19</td> <td>0.05</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	平均値	0.00	0.00	0.41	0.19	0.05	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00															
平均値		0.00	0.00	0.41	0.19	0.05	-															
累積欠損金比率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}} \times 100$																						
説明	評価																					
<p>累積欠損金とは、営業活動の結果発生した損失が、当該年度で処理できずに複数年度にわたって累積したものを示しています。健全な経営を維持していく上では、累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められます。</p>	<p>本市では、累積欠損金は発生していません。</p>																					

施設の老朽化状況

業務指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>27.57</td> <td>29.61</td> <td>31.53</td> <td>33.58</td> <td>35.64</td> <td>37.46</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>22.87</td> <td>28.42</td> <td>28.24</td> <td>29.38</td> <td>30.60</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	27.57	29.61	31.53	33.58	35.64	37.46	平均値	22.87	28.42	28.24	29.38	30.60	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		27.57	29.61	31.53	33.58	35.64	37.46															
平均値		22.87	28.42	28.24	29.38	30.60	-															
⑧有形固定資産減価償却率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$																						
説明	評価																					
<p>有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標で、資産の老朽化度合いを表しています。この比率が高いほど減価償却が進んでおり、施設の老朽化が進んでいるということを示しています。</p>	<p>類似団体よりやや高く、上昇傾向にあります。施設の老朽化が進みつつあることから、計画的、効果的な償却対象資産の更新等を行う必要があります。</p>																					

令和2年度取組状況報告書

施設の老朽化状況

業務指標	<p style="text-align: center;">管きょ老朽化率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>1.52</td> <td>3.77</td> <td>6.63</td> <td>6.77</td> <td>8.67</td> <td>10.21</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>1.20</td> <td>3.01</td> <td>3.67</td> <td>3.45</td> <td>5.02</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	1.52	3.77	6.63	6.77	8.67	10.21	平均値	1.20	3.01	3.67	3.45	5.02	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		1.52	3.77	6.63	6.77	8.67	10.21															
平均値		1.20	3.01	3.67	3.45	5.02	-															
⑨管きょ老朽化率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管きょ延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$																						
説明	評価																					
<p>法定耐用年数を超えた管きょ延長の割合を示す指標で、管きょの老朽化度合いを表しています。</p>	<p>類似団体より高く、上昇傾向にあります。これから更新時期を迎える管きょが多く、老朽化率がさらに高くなるが見込まれるため、計画的、効果的に更新等を進めていく必要があります。</p>																					

施設の老朽化状況

業務指標	<p style="text-align: center;">管きょ改善率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>0.31</td> <td>0.23</td> <td>0.32</td> <td>0.32</td> <td>0.18</td> <td>0.43</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>0.11</td> <td>0.13</td> <td>0.10</td> <td>0.12</td> <td>0.19</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H27	H28	H29	H30	R1	R2	川越市	0.31	0.23	0.32	0.32	0.18	0.43	平均値	0.11	0.13	0.10	0.12	0.19	-
		H27	H28	H29	H30	R1	R2															
川越市		0.31	0.23	0.32	0.32	0.18	0.43															
平均値		0.11	0.13	0.10	0.12	0.19	-															
⑩管きょ改善率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{改善(更新・改良・維持)管きょ延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$																						
説明	評価																					
<p>その年度に更新・改良・維持した管きょ延長の割合を示した指標で、改善の取組状況を表しています。例えば毎年1%ずつ改善した場合、100年で全ての管きょを改善する計算となります。</p>	<p>令和元年度から繰り越しとなった工事が令和2年度に完成したため、管きょ改善率が上昇しました。今後も計画的に更新を行い老朽化対策を進めていく必要があります。</p>																					

川越市上下水道事業経営戦略
(令和2年度 取組状況報告書)

令和3年11月発行

川越市上下水道局 総務企画課

〒350-0054 川越市三久保町 20 番地 10

TEL:049-223-3063

MAIL:somukikaku@city.kawagoe.saitama.jp